

議 事 録

1. 会議の名称	池田市史編纂委員会
2. 開催日時	平成29年5月22日（月） 午前10時00分～11時30分
3. 開催場所	市庁舎6階 第3会議室
4. 出席者 ※委員長：◎ 副委員長：○	《委員》 小田 康徳 ◎ 野高 宏之 松永 和浩 《事務局職員》 田淵教育長 齋藤教育部長 田上教育部次長兼生涯学習推進課長 細谷主幹 芝原主事 関根学芸員
4. 議 題	(1) 平成29年度 事務局の体制について (2) 池田市史の刊行状況と史料について (3) 平成29年度 市史編纂に伴う予算について (4) 編纂事業の現状と今後について
5. 議事経過	別紙のとおり
6. 開・非公開の別 ※非公開の理由	公開
7. 傍聴者数	0名

開 会

教育長 昨年度末をもって、昭和 39 年より 53 年間近くにわたって務めていただいた編纂委員が勇退。今年度から、新たに 2 名の委員にご参加いただき、4 名の体制でのスタート。平成 24 年に『新修池田市史』が完結、昨年には『池田市史史料編⑩』を出すことができ、大きな区切りとなった。今後、いかに市史編纂の事業を進めていくのか、方向性を考えていかなければならない。市史の活用、収集史料の保存・管理・活用なども大きな課題となる。より充実した事業が推進できるよう、さらなる協力をお願いしたい。

(1) 平成 29 年度 事務局の体制について

事務局 課長以下 11 名の職員がいるが、市史編纂に関わる職員は昨年まで 5 名だったのが 4 名に。生涯学習推進課としての主な業務は、市史編纂などの他に、文化財保護、団体育成、社会教育施設の管理など多岐にわたる。さらに今年度は、昨年度に引き続き「池田市歴史文化基本構想」の策定業務に対応しなければならない。肝心の市史の業務も少しずつでも前進させてゆきたい。

(2) 池田市史の刊行状況と史料について

事務局 昭和 26 年頃より市史編纂の業務が始まり、昭和 30 年の『池田市史』概説編を皮切りに、35 年に各説編、46 年には『新版池田市史』を刊行。平成 5 年から 24 年にかけては、『新修池田市史』を全 6 巻刊行。また、史料編も昭和 42 年の刊行から始まり、今年の⑩の刊行で一応一区切りつき、全 20 冊を刊行。ほかに『まんが池田の歴史』を刊行。次に、史料の調査収集機能に関しては、大きくは市史と資料館が担っており連携している。保存の方法と保管だが、目録・データベースを作成し、必要に応じて複写し、返却するというのが基本。ごく一部は寄贈いただいている。保管場所がこの本庁舎のほか、外部施設に分散されており、管理が行き届かず大きな課題となっている。

委員 史料の保管場所の環境については。

事務局 一部外部施設に関しては、直射日光が当たったり湿度が高かったりするような状況。

(3) 平成 29 年度 市史編纂に伴う予算について

事務局 市史資料調査費に関しては、昨年度と比べて、現代専門部会の解散に伴う減額のみ。なお、古文書や歴史資料の調査や保存対策を進める「古文書・歴史資料調査事業」があり、額は少ないが、この事業でも調査費を組んでいる。

(4) 編纂事業の現状と今後について

事務局 現在、史料収集に関しては、行政資料収集、新聞記事切り抜き、ミニコミ誌の収集などを継続しているが、外への積極的な調査は手が回っていない。ただし、史料の寄贈の話があるなど、持ち込まれる調査への対応が複数件ある。

史料整理に関しては、過去の調査資料の悉皆リストの作成、過去の新聞記事のデータベース化などを進めているが、未整理の史料がまだ多数ある。今後の課題としては、史料残存状況の悉皆調査、史料の収集・整理・一括保管、行政史料の保存対策、市史の販売促進など。一般向けの簡易な史料紹介のシリーズ化、観光史跡マップなどの、要望が大きいが無かったものも検討してゆきたい。また、平成31年と51年の市制施行80周年、100周年の事業タイミングを考慮してゆく必要もある。

委員長 色んな課題があるが、一番重要なポイントを強化することがまずは必要。作業に従事していく人を育成する必要がある。調査を通して人材育成もしていかなければいけない。

委員 観光マップの作成に関して、観光担当部署との連携は可能か。

事務局 市民からの要望が多い、史跡を中心とした街歩きに対応したものなどを連携して作ってゆきたいと考えている。

教育長 観光は市全体としても重要な問題。観光マップに関しては現在様々なものが混在。歴史の面で史跡等を網羅するものも必要と考えている。

委員 市史を出した後どうしていくか。これまでの最低限の収集と活用にプラスして何ができるか。また、公文書の管理や保管は重要であり、市役所全体の課題として、市全体で取り組むべき問題である。

委員 学校教育での取り上げ方はどういったものがあるか。

事務局 副教材を作成する際には、確認やアドバイスをしたりしている。また、新規採用教員に対するフィールドワークの講師も行っているが、授業での連携はしていない。資料館では出前講座を行っている。

委員 いろいろな事業を行おうと思うと、やはり人材育成が大切。いろいろな人に歴史・市史の大切さを伝える工夫や、市史に対して理解をしてくれる人を増やす仕組みが重要。

委員長 まず何かを始めることが大切。委員会とは別に、どういった企画から着手するかを検討する会合も持ちたい。

閉 会